



なごや環境大学 2019 年後期 一般市民向け技術士会愛知県支部環境講座

「楽しく」「わかりやすく」「面白く」地球環境の将来を語り合うタベ

第 3 回 ファッションアパレルの最新サステナブル動向について

主催：公益社団法人日本技術士会中部本部愛知県支部

日時：令和 02 年 2 月 11 日(火) 19:00～20:30

場所：名古屋学院大学キャンパスたいほう 恵館 303 室

(地下鉄日比野駅 1 番出口から徒歩 10 分)

会費：1,000 円

講師：毛呂俊夫(技術士：機械部門)

内容

No	項目	内容
1	ファッションアパレルの動向とアパレル環境負荷について	2013 年に発生したバングラデッシュの縫製工場崩壊の大惨事以来、国連においても繊維産業、環境負荷が取り上げられ、さらに国連気候変動枠組み条約(UNFCCC)でも、ファッションと SDGs(持続可能な開発目標)が議論され始めた。ファッションアパレルをとりまく環境は徐々に厳しくなってきた。
2	アパレル環境負荷の現状	アパレルの環境負荷の3大ポイントは、1. 世界の温室効果ガス排出量の10%を占め、石油に次ぐレベルの負荷となった。2. 水の消費量は世界で2番目に多い業界、3. 農薬、染色などにおける有害化学物資の使用量が多く、人的被害、土壌汚染などが世界的規模で発生。などを理解した上で生活に必須なアパレル産業との向き合い方を議論する。
3	アパレルの製造工程におけるサステナビリティ行動	アパレルの約60%を占めるコットンについて、環境負荷低減の取り組みについて解説する。コットンは世界耕地の約3%を占め、化繊にくらべて10倍の水を使用する。一方で、農薬を減らしながら土地面積当たりの生産性も30年で約2倍になってきた。エネルギー基準で見れば約半減されている。さらに低エネルギー化にはリサイクルがキーになる。などの最新動向を解説する。
4	アパレル流通プロセスにおけるサステナビリティ行動	アパレル大量生産と在庫、膨大な廃棄量に言及し、アウトレット、ネット上の格安店の存亡などの現状及び大量生産しなければまわらない経営状態などアパレル流通の背景を解説する。さらに、SPA、ファストファッションにみる流通機構の競争変革、及びグローバル経済がファッションのハイサイクル化を招き、大量生産、大量廃棄問題を助長している。
5	消費者行動の新しい動向	欧米では年間20-30Kgの衣料を廃棄すると言われる。また、日本での家庭内衣料品保有数は平均270点に上り、極めて多くの在庫を抱える。ファストファッションの台頭、低価格化が主要因であるが最近ではスローファッション、エシカルファッションなども徐々にではあるが定着傾向にあり、消費者の今後取るべき方向性についても議論する。



2019 年後期 なごや環境大学共育講座 B-73

「楽しく」「わかりやすく」「面白く」 地球環境の将来を語り合うタベ

主催：公益社団法人日本技術士会中部本部 愛知県支部

場所：名古屋学院大学名古屋キャンパスたいほう恵館 303 教室

(地下鉄日比野駅下車 1 番出口から徒歩 10 分)

会費：1 回あたり 1,000 円

申込み先：野々部顕治まで

メール：nonobe@tac-net.ne.jp

名古屋学院大学

名古屋キャンパスたいほう

<会場のご案内>

名古屋学院大学名古屋キャンパスたいほうは、地下鉄日比野駅 1 番出口を出てすぐ左へ、南東方向へ 400m ほど行ったところにあります。会場は、その右側の建物（恵館）3 階の 303 教室です。

